五中の春の野草たち ~ 力の庭は、野草たちの楽園 ~

4 月中旬になると、気温も20℃を超える日が続き、春の野草たちも、ぐんぐん伸びて元気に育っています。 今年は、はや5月下旬なみの高温の日も多く、早春に、いち早く咲いた「低めの気温が好きなタイプ」の野草た ちは、日の当たる場所からはそろそろ姿を消してしまいそうです。

先日、1年生が理科の観察授業で、学校敷地内の「野草調査」を行っていました。日当たりの良い校庭の周りや、校舎に守られた中庭の野原、木たちの木陰など、変化に富んだ環境があります。そして学校周辺も、畑や雑木林、側道、住宅地、空き地など、環境のバリエーションが豊富で、いろいろ植物たちが、それぞれの好みの環境で育っているようです。

春に出会った野草たちを紹介します。

ヒメオドリコソウ シソ目シソ科オドリコソウ属





明治時代に日本に入ってきた帰化植物で、小さな紫色の花が、輪になって踊る踊り子たちのように、茎の上部に付く様子から名づけられた名称で、在来集のオドリコソウの半分くらいの大きさなので、小さいことを意味するヒメが付けられました。

ホトケノザ シソ目シソ科オドリコソウ属





シソ科の植物は花の形が似ています。2枚が対になって茎に付く葉の上に、小さな花が立つよう咲く様子が、台座にのる仏様のように見えることから名づけられました。

ちなみに、春の七草の「ホトケノザ」 は、キク科の「コオニタビラコ」の別

称で、この植物ではありません。食べたことはありませんが、美味しくはないと思います。

キュウリグサ ムラサキ目ムラサキ科キュウリグサ属





蕾(つぼみ)は、くるくると巻いた 茎の先に並んで付き、下から順に青い 小さな花を咲かせます。手で茎や葉を もむとキュウリのような香りがする ので名づけられました。

別称で「タビラコ」とも呼ばれ、春 の七草の「ホトケノザ」の標準和名で

ある「コオニタビラコ」と似た名前で紛らわしいです。

コハコベ ナデシコ目ナデシコ科ハコベ属





単にハコベと呼ばれるものには、コハコベとミドリハコベの2種類があります。茎が紫色を帯びていればコハコベ、緑色だとミドリハコベですが、日陰に生えていたり、若いコハコベは緑色をしているものも多くいます。雄しべの数が3~5だとコハコベ、5~

10だとミドリハコベです。ミドリハコベは在来種で、コハコベは明治以降に入ってきた帰化植物とする図鑑もあります。小さい白い花は、10枚の花びらの」ように見えますが、1枚が2つに根元まで分かれているので、実際は5枚です。この植物も、春の七草の一つです。

アメリカフウロ フウロソウ目フウロソウ科フウロソウ属

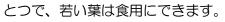




昭和中期にアメリカから輸入した 牧草に種子が紛れて入り込んだ帰化 植物で、煎じて飲むと胃腸に利く薬草 にもなるゲンノショウコと同じ仲間 のフウロソウ科なので、この名がつけ られましたが、本種は薬用にはなりま せん。

ナズナ アブラナ目アブラナ科ナズナ属







ムラサキケマン



7ワガタソウ属 キンポウゲ目ケシ科キケマン属 D花で、けっこう 日陰を好む野草です。筒状で濃 送いています。 い紫色をしているのが目立ちます。

アブラナ科は黄色の花のイメージがありますが、白い花を咲かせます。 茎の下の方の蕾(つぼみ)から花が咲きますが、果実の形が、和楽器の三味線を弾く時に使うバチに似ていることから、三味線の音色で、「ぺんぺん草」という別称があります。春の七草のひ

カラスノエンドウ



マメ目マメ科ソラマメ属 エンドウとありますがソラマメ 科で、標準和名はヤハズエンドウ

オオイヌノフグリ

シソ目オオバコ科クワガタソウ属 可愛らしい青色の花で、けっこう 早春、1月頃には咲いています。